

優秀賞

ヤマメを残すために

茨城大学教育学部附属中学校

三年 戸崎陽菜

私が思い浮かべる川にはヤマメがいる。あなたは「ヤマメ」を知っているだろうか。ヤマメは冷涼で澄んだ川にのみ生息するサケ科の魚で、「清流の女王」とも呼ばれている美しい魚だ。そんなヤマメが私は大好きだ。

幼い頃から自然が好きで、よく川を見に行っていた。お気に入りの川に、いつもヤマメがいる。ヤマメは、銀色の鱗をキラキラと輝かせながら静かに泳いでいる。やさしい光がゆらゆらと揺れ、見ているだけで心がほっとする。

しかし、ヤマメの個体数が減少傾向にあるというニュースを見たときは、とても衝撃を受けた。かつては各地で豊富に生息していたヤマメだが、近年

では河川の埋め立てや水質汚濁、水温上昇などにより、生息域が狭まってしまったことが背景にあるそうだ。これにより、ヤマメは準絶滅危種にも指定され、保全がさらに高まった。身近な生き物だったため、ヤマメの存在が危うい状態だとは思いいしなかった自分が情けないとさえ思えた。しかし、これも全て私たち人間が行ったこと。私たちによって変えられた環境がヤマメの危機に繋がってしまったのだ。その危機を見過ごすことは無責任がすぎると私は思った。自分たち人間が責任をもってヤマメが生きられる環境へ再び変えていくべきだと思う。ヤマメが住みやすい環境へ変えるため、自分ができることに積極的に取り組みようと決めた。

そんな衝撃と小さな決意を後にし、まずはヤマメを知ることから始めた。インターネットで調べるとヤマメは、川の水質環境を評価するための環境指標生物の一つであることが分かった。水生生物は、その生息環境に影響を大きく受けるため、水質や水温などの環境条件が変化すると、そこに生息する生物の種類や個体数も変化する。このような特徴を利

用し、水生生物の種類や個体数を水質の指標として利用するのが「環境指標生物」であるヤマメは一般的に、水質が良い上流部に生息し、水温が低い場所を好むため、その存在は水質が綺麗であることを示唆するそう。したがって、ヤマメを保護するためには、水質の保全と水温の上昇対策に加えて子孫を残しやすいその環境を保つことが重要になると思った。

実際にヤマメの個体数を増やすために、ヤマメの稚魚を放流したり、人口産卵場の設置をしたりするなどの取り組みが行われている。ヤマメの住める綺麗な川づくりを目指して取り組むことはとても良いと思うが、どの取り組みも行っているのは高齢者が多い。

未来に残していくには子供の頃から関心をもつことが大切だと考える。そのために、まずは若い人たちが経験できる「きっかけ」をつくることが重要だと思う。具体的には、それぞれの取り組みを小学校の授業に取り入れることや地域のイベントを活用することだ。このような「知る」活動を通すことで、

若い人たちが関心をもつことにつながると思った。そして、若い人たちが次の世代へ「伝える」ことで、知る・伝えるのサイクルが生まれる。私は、そのサイクルを通すことで、持続可能な生態系の維持につながる仕組みづくりができると考えている。

さて、中学生の私に何ができるだろうか。今の私にできることはきつと限られている。しかし、SDGsに取り組んだり、ボランティア活動に参加したりすることはできる。決して大きな力ではないと思うが、誰でもできることである。未来に残すために一人ひとりの問題意識を高めることが重要であると思う。私は、全体を見据えて自分ができることに取り組み、周りに良い影響を波及していきたい。